

国語科学習指導案

日時：平成20年7月4日（金）2校時 1年2組教室
生徒：1年2組（男18名 女21名 計39名）
指導者：阿部 俊一

1. 単元（題材）名

2 視野を広げる 「クジラたちの声」（中島将行）

2. 主題について

（1）学習者について

生徒たちはここまで「読むこと」の学習として、「野原はうたう」「にじの見える橋」「ちょっと立ち止まって」と学習を重ねてきたが、そこではそれぞれの学習事項だけでなく、3年間の国語学習を見据えた学習の仕方や、文種や言語活動に応じて基礎的な学習用語等についても学習してきた。文章の構成や展開にかかわるものに絞って言えば、まず「にじの見える橋」で物語文（小説文）の基本的な構成として起承転結の構成を学習している。また、説明的な文章を中学校で初めて学習した「ちょっと立ち止まって」では、「序論—本論—結論」の組み立てや、話題提起・具体例・まとめ・筆者の考えなど段落の役割を学習した。やや個人差が見られるものの、これらについてはおおむね理解できたのとらえている。段落の働きや構成についてさらに理解を深めさせ、読みの技能として使いこなせる力にしていくことが望まれる。

（2）題材及び学習材について

この題材において中心となる指導事項は、学習指導要領の「読むこと」のウ「文章の中心の部分と付加的な部分、事実と意見などを読み分けて、文章の構成や展開を正確に捉え、内容の理解に役立てること。」である。この指導事項は、ここでの学習材「クジラたちの声」のような説明的な文章において学習することが望ましいものであり、文章の要旨をとらえる力にも関連する。「クジラたちの声」は段落の役割や関係が問いと答えの部分に着目すればとらえやすく、この学習にふさわしい学習材といえる。また、動物の不思議に触れる内容は、中学一年生の生徒たちの関心を引きつけるものとも言える。なお、合わせて言語事項（1）のエ「話や文章の中の段落の役割や文と文との接続関係などを考えること。」を指導する。さらに、「書くこと」のオ、「読むこと」オ、カも関連して指導する。

（3）指導にあたって

そこで指導に当たっては、段落の役割や関係をもとに文章構成をとらえる学習を、既習事項を活用させながらすすめたい。まず、問いと答えの様式や関係の学習を手がかりに、「ちょっと立ち止まって」や小学校での学習経験を生かさせながら、「序論—本論—結論」「本論の中のまとめ」の組み立てをとらえさせる。また、その学習の過程で内容の理解も十分にはかりたい。さらにここでの学習のゴールとして、もう一つのテキストから読み取った情報（具体例）をリライトして「クジラたちの声」の適当な箇所へ挿入する言語活動に取り組みさせる。この活動では、2つの文章の構成や具体例を述べた段落の要点を読み取ることなどが必要である。それにより、段落の役割や構成をとらえる観点を使いこなす学習経験をさせ、言語技能として定着させることを目指したい。

3. 自分の思いや考えを見つめさせ、自分を変えさせていく学び方の構想

（1）「自分を見つめさせる」場のあり方

他と交流し合うことを通して自分の考えが修正・深化・強化される学習経験が、いわゆる「自分を見つめる」ことになる。そのため、この題材の指導では、ア「クジラたちの声」を読んで初めて知ったことを交流する学習、イ「クジラたちの声」の文章構成を意味段落に分けながら考える学習、ウ「クジラたちの声」に挿入する文章を書き読み合う学習の3回に、この「自分を見つめさせる場」を設定する。アでは「初めて知ったこと」の交流が自分の見方を広げる学習に、イとウでは条件や観点をふまえて考えや書いた文章を比べることが理解を深める学習になるよう進めたい。

（2）「自分を見つめる」評価のあり方

一連の学習のあとで、具体的な観点を与えてメタ認知的に振り返ったことを、学習記録として記述させる学習活動を行う。観点としては「この学習をして身につけたこと」「さらに読む学習の中で身につけたいことや高めたいこと」を与えて書かせる。あくまで自分を主語とし、自分に国語の力がどのように身に付いたかを考えさせ記述させたい。これを、継続させ蓄積させることが、「自分を見つめ」させることになると考える。

4. 単元の評価規準と指導の重点

国語に対する関心・意欲・態度	読むこと	言語についての知識・理解・技能
クジラの不思議な生態について理解を深めるとともに、自然や生物に対する自分のものの見方や考え方を広げようとしている。	段落に着目して文章の構成をとらえ、「クジラたちの声」を補う情報を取り出し挿入する文章を書いている。	段落を構成する文の役割や接続関係に着目し、問い・答え・具体例などの段落や文のかたちを説明している。

5. 指導計画 (4時間扱い)

第1次

第1時 「クジラたちの声」を読んで初めて知ったことを交流し、内容の理解を深めることができる。

第2次

第2時 問いと答えの部分に着目し、「クジラたちの声」の文章構成をとらえることができる。

第3次

第3時 副学習材から「クジラたちの声」を補う具体例を取り出し、挿入する文章を書くことができる。

第4時 前時に書いた文章を読み合い段落の働きや文章構成について理解を深めることができる。(本時)

6. 本時について

(1) 目標

前時に書いた文章を読み合い、段落の働きや文章構成について理解を深めることができる。

(2) 指導の構想

本時の学習は、前時に書き上げた『クジラたちの声』に挿入する文章をお互いに読み合う学習が中心であり、それを通して段落の働きや文章構成、表現の特徴について理解を深めることがねらいである。

まず、これに先だつ前時の学習では、もう一つのテキスト(自作の副教材「クジラはすごい生き物だ」)から情報(具体例)を取り出し「クジラたちの声」の内容を補うため適当な箇所に挿入する文章(段落)を書く、というものである。ここではまず、「クジラたちの声」のどこに挿入するのが適当か、副教材のどこから情報を取り出すかという観点から、それぞれの文章の(話題提起か具体例を挙げて説明かまとめかなどを区別して)構成を正しく読み取ることが求められる。さらに、副教材にある情報を「クジラたちの声」に合うように挿入する必要から、「クジラたちの声」の表現の特徴や2つの文章の文体の違いをとらえることも必要である。これらを書くときの観点として十分に意識させ取り組ませたい。

本時では、その観点がそのままお互いの書いた文章を読み比べるときの観点となる。すなわち、ア「クジラたちの声」の内容を補う具体例を取り出せたか、イそれを「クジラたちの声」にふさわしく書き直せたか、ウそれを「クジラたちの声」の適当な箇所に挿入できたか、の3点が具体的な観点となる。それらを相互評価させつつ、最後は主体的な学習となるよう自分の参考となった点と自分の文章を直したい点をまとめさせ、発表させたい。さらに、観点にかかわって作文のポイントを全体で話し合う中で、2つの文章の段落の働きや文章構成、表現の特徴について確認させ、学習のまとめとさせたい。

(3) 具体的評価規準

観 点	おおむね満足できると判断できる状況(B)	十分満足できると判断されるキーワードの例(A)	努力を要する生徒への支援の手だての例	評価の方法
国語に対する関心・意欲・態度	読み合い発見したことを自分の文章に生かそうとしている。	・記述や発言の豊かさ ・発言の熱意 ・自分なりの観点	・前時までの想起 ・簡単な例示 ・観点の再確認	・学習シートへの記述状況 ・発言の記録
読む能力	自分の推敲の理由を文章構成とのかかわりから説明している。	・本文に即した根拠 ・用語的的確な使用 ・理解の深まりの自覚	・観点の再確認 ・交流方法、学習の流れ等の再確認	・学習シートの記述内容 ・発言の記録

(4) 本時の展開

学習過程	生徒の活動	教師の指導・支援	留意点・備考
1 課題作り	1 前時の学習を想起する。	1 次の点について話させ、前時の学習内容を確認させる。 ア 取り組んだこと イ 書く条件やポイント ウ やってみたい感想	○板書 ○副教材シート ○各自の書いた文章
2 課題を設定する (5分)	2 本時の学習課題を把握する。	2 前時の学習の感想の違いから学習課題の提示につなげる。	○学習シート
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px auto; width: 80%;"> 前時に書いた文章「進化版・クジラたちの声」を読み合い、自分の文章をもっとよくするにはどうしたらいいか考えよう。 </div>			
(学習を見通す)	学習の進め方について確認する。	おおまかな学習の流れや注意点を学習シートをもとに確認させる。	○学習シート
3 自分を見つめる	3 前時に自分が書いた文章を読み、自己評価する。	3 3つの観点を確認し、それにそって評価させる。 ア 具体例を取り出せたか イ ふさわしく書き直せたか ウ 適当な箇所に挿入できたか	○学習シート
4 交流する	4 お互いに書いた文章を読み合い、参考とすべき点をつかむ。	4 グループごとに3つの観点にそって読ませ、評価をシートにメモさせる。その後参考とすべき点を発表させる。	
5 考えを再構築する	5 もう一度自分の文章を読ませどう直せばいいか考える。	5 自分の参考となった点と自分の文章を直したい点をまとめさせる。	○学習シート
6 課題を追究する (33分)	6 3つの観点にしたがって、作文のポイントについて話し合い2つの文章の段落の働きや文章構成、表現の特徴について再確認する。	6 次のように確認する。 アから 副教材の段落構成 イから 表現の特徴 ウから 「クジラたちの声」の段落構成	○教科書 ○副教材
7 まとめる・ふりかえる (12分)	8 段落の役割や関係についての基本的な考え方をキーワードとともにおさえる。 9 本題材の自分の学習についてふり返り、学習記録を書く。	8 学習の中でおさえてきた段落の役割や構成をキーワードとしてまとめさせる。 9 次の観点で記述させる。 ア 学習から身につけたこと イ 今後身につけたいことや高めたいこと	○ノート ○ノート